日文教育資料［小学校書写］

2010
No.1

線
Line

平成23年度用　新版「小学書写」教科書特集号

目　次

今こそ書写教育の必要性と重要性を説く
学びの基本としての書写の重要性　西橋靖雄

指導のミカタ　**鉛筆の持ち方をくふうしよう**

書写の「ココが知りたい!」　萱のり子

特集　新版教科書はこう変わる!
- 新版「小学書写」教科書の内容紹介
- 新版教科書をこう使う①
- デジタル教材に期待して

コンドウアキの書写的生活　連載第一回

わたしの習った教科書

大阪書籍「小学書写」「小学社会」「小学算数」から
版権譲渡を受けた教科書については，
著作者，内容に関する基本的な考え方には変更なく，
今後も発行を継続して参ります。116 日文

未来をになう子どもたちへ
日本文教出版

線 Line　No.1　CD33114

日文教育資料［小学校書写］
定価 315 円（本体 300 円＋税 5 %）
平成 22 年（2010 年）4 月30日発行
編集・発行人　佐々木秀樹

本書の無断転載・複製を禁じます。

題字・新谷泰鵬

発行所　**日本文教出版 株式会社**
http://www.nichibun-g.co.jp/
東京本社　〒165-0026　東京都中野区新井1-2-16
TEL:03-3389-4611　FAX:03-3389-4618
大阪本社　〒558-0041　大阪市住吉区南住吉4-7-5
TEL:06-6692-1261　FAX:06-6606-5171

今こそ書写教育の必要性と重要性を説く

学びの基本としての書写の重要性

大阪教育大学名誉教授
西橋 靖雄（香峰）

「書写」についてあらためて考えてみたい。いうまでもなく、「書写」は国語科の中の一科目である。したがって、書写としての教科目標はなく、国語の目標がそのまま書写の目標でもある。小学校の他の教科をみても、このような科目はない。書写は、単独の教科ではないにもかかわらず、また国語科の新しい学習指導要領では伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項に位置する一つでありながら、教科書を別にし、独立した形で授業を行っている。これは、別の見方をすれば、「書写」が特別に学習する必要のある内容をもっていると考えることができるのではないだろうか。

「書写」は、「文字を正しく整えて書くこと」をねらいとする学習である。一画一画を丁寧に習い、部首などの部分、文字の形に注意して書くところから、語・文・文章へと段階的に学習を進めていくことが大きな比重を占めている。

しかし、書写のねらいを達成するために最も重要とされるものは何だろうか。

平成二十三年度から小学校で実施される新しい学習指導要領の、第一学年及び第二学年の「書写に関する事項」には、まず最初に、「姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、…」とある。低学年での筆記具といえば、まず鉛筆ということになる。書写の基礎基本といえば姿勢と、とりわけ低学年入門期の鉛筆の持ち方が大切である。私は常々この姿勢と鉛筆の持ち方を重要視している。

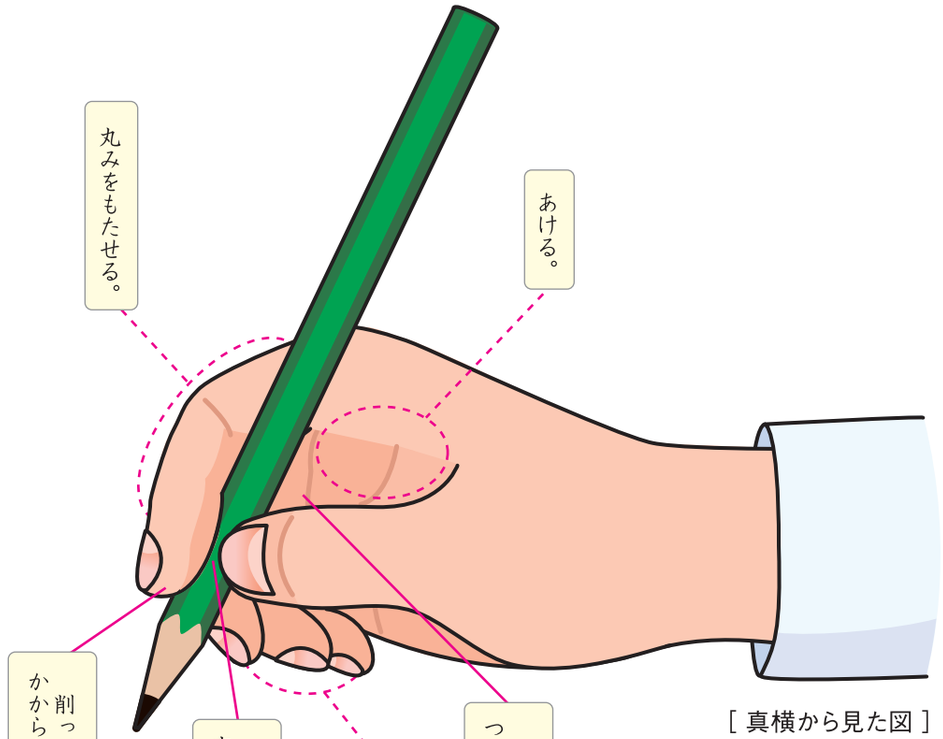
巷の社会人が筆記する姿を見て驚いたり、嘆かわしく思ったりするのは私だけだろうか。一般に共通したよくない持ち方は、鉛筆と親指が直角に交わり、鉛筆に沿った人さし指よりも親指の先が出ている形である。また、人さし指と中指の間に深く鉛筆を挟み、親指はやや上を向いて何の用も果たしていない状態などもよく見られる。このような持ち方がなぜよくないかといえば、点画のはね、払いが十分に表現できないからである。ましてや平仮名の曲線が円滑に書けないという悪癖に陥ってしまう。一般的に、指先を使って仕事をしなければならないときは、指先の敏感な感覚を利用してこなすのである。文字の繊細なとめ、はね、払い、曲線などを表現するには、この敏感な感覚を持っている指先の働きを生かす持ち方でなければならない。単純に考えると親指、人さし指、中指の三本が大切である。親指は横画、人さし指は縦画を引く際に力を入れなければならないし、中指は支えとしての役割を果たすという分担がある。この三本の指先を活用して漢字や平仮名、片仮名を書くことに慣れさせることが大切である。正しい持ち方は、効率のよい最も書きやすい持ち方といえる。

子どもは、二、三歳の頃から道具を持ち、紙に何かを書き始める。それは、強制されたわけでもなく、自らの欲求による行動である。初めは、単なる線だったものが、やがて伝達手段としての符号である文字を書くようになる。文字を書くようになれば、親としては子どもの知識欲に喜び、もっと上手に書けるようになってほしいと願い、どんどん書かせるということになる。こうして、子どもたちは個人差はあるものの、すでに何年間か鉛筆を持ち、何かの文字を書いた経験をもって小学校に入学してくる。人に聞けば、三歳ぐらいの時期に気をつけて、持ち方を矯正してやれば比較的に直しやすいという。少なくとも幼稚園時代までに行うとよいというのである。それでは小学校では手遅れかというと、そうではない。小学校入学以後でも十分に可能である。しかし、一旦ついた癖はなかなか直りにくいもので、相当な根気を必要とする。それこそ、「書写」の時間だけなく、常に目を光らせてしつこく繰り返し注意を促さなければならない。当然、家庭での協力も必須であろう。何しろ、「文字を正しく整えて」書けるようになるためには、正しい姿勢と鉛筆の持ち方で書くことが必要条件で、最も近道なのである。文字を正しく整えて書けることは、子どもにとってはおそらく一生涯使い続ける技能であるから、ここで努力を惜しんではならない。

先に述べたように、「書写」は国語科の一科目であり、殊に国語の領域の特に「書くこと」と密接に関連し、それを側面から支える学習活動である。また、国語のみならず、他教科の学習活動の土台となる部分を担っている重要な科目である。各教科の活動は、「書写」で身につけた能力が常に生かされる場でもある。

現場の先生方には、ぜひ書写学習への理解を深めていただき、一人一人の子どもたちが少しでも「文字を正しく整えて書くこと」を身につけられるよう、積極的な指導をお願いしたい。

鉛筆の持ち方をくふうしよう



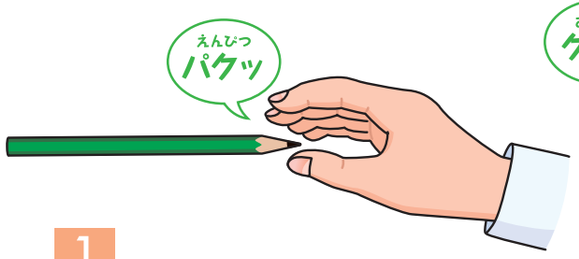
［ 真横から見た図 ］

正しく整った文字を書くためのポイントは、何と言っても姿勢と筆記具の持ち方。正しく持つことは、整った文字を書くための第一歩です。しかし、一度ついてしまった持ち癖は、なかなか直りにくいもの。自然に持てるようになる方法はないものか、…。お困りの先生方も多いはず。正しい持ち方を確認しながら、いろいろな方法を試してみましょう。

［ 真下から見た図 ］

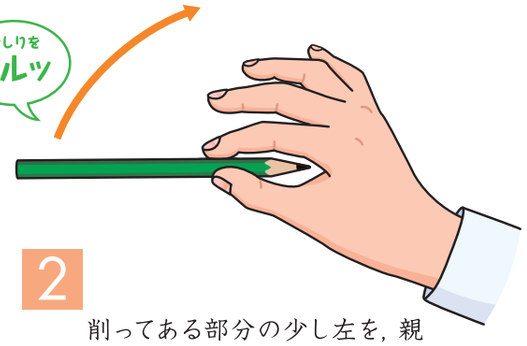
鉛筆の側面に，指はこのように接している。

持ち方の合い言葉



1

鉛筆の先を右に向けて机に置く。
（左手で持つ場合は，左に向ける。）



2

削ってある部分の少し左を，親指と人さし指で軽くはさんで持ち，鉛筆を回転させる。

3

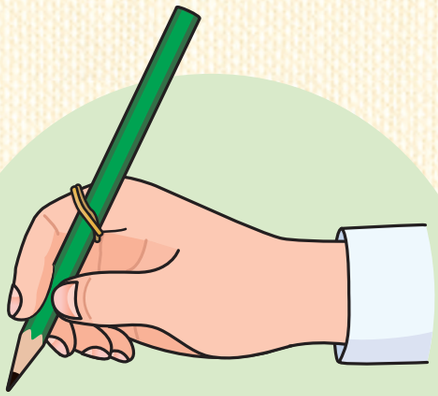
鉛筆が親指のつけ根に入らないように，人さし指にそわせるようにする。

4

中指を鉛筆につけ，薬指と小指を自然にそえるようにして完成。

ここに示した方法は、ほんの一例です。ほかに実践されているくふうなどがあれば、ぜひご紹介ください。

イラスト・さかい しん



［ 輪ゴムを使ったくふう ］

どうしても指先に力が入ってしまうときに試してみましょう。